

□HBMS施設



講義室
プロジェクター、大型スクリーン、全壁面にホワイトボードを設置。



MBA図書室
ビジネス関連書籍が多彩に揃う、静かで落ち着いたアカデミック空間。



HBMS専用学生サロン
仲間とのディスカッションや自習など自由に活用できるスペース。



大学院生研究室
パソコンを使って個人作業に取り組める環境を整えています。

□学内施設



学術情報センター・図書館
蔵書数30万冊を誇る、県内でも屈指の図書館。ラーニングコモンズも完備。

□学外施設



サテライトキャンパスひろしま
市中心部に位置し、公開講座やセミナーを開催。

教育訓練給付金指定講座



HIROSHIMA BUSINESS AND MANAGEMENT SCHOOL

県立広島大学大学院 経営管理研究科

中国エリア唯一のMBAが取得できる
経営専門職大学院

2025

ACCESS



□JR広島駅から

バスで

- 「302号線(都市循環線まちのわーぷ右回り)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩すぐ
- 「312号線(広島みなと新線)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩3分
- 「342号線(県病院前行き)」にて「県病院前」下車…徒歩2分(※始発から8時00分発まで)

市内電車で | 「広島港」行き(5号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

□バスセンター(紙屋町)から

市内電車で | 「広島港」行きまたは「宇品二丁目」行き(1号線または3号線にて)「県病院前」下車…徒歩7分

□八丁堀から

バスで | 広電バス「12号線(仁保沖町)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩1分

□広島港(宇品)から

市内電車で | 「広島駅」行き(1号線または5号線)または「広電西広島(己斐)」行き(3号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

お問い合わせ先


広島県公立大学法人 県立広島大学 HBMSマネジメント課
☎ 082-251-9726 ✉ mba-office@pu-hiroshima.ac.jp



<http://mba.pu-hiroshima.ac.jp/ja/>

HBMS MBA 検索





広がる。 そして、変わる。

HBMSでは、基礎となるビジネスマネジメント力をしっかり身につけたうえで、現代社会に求められる先端的マネジメント力を培うことによって、MBAホルダーにふさわしい高度な専門性と卓越した実践力を発揮できる次世代リーダーを育てます。少人数のきめ細かな指導、多彩な仲間たちとの濃密な学びあいの2年間は、視野やネットワークそして可能性を飛躍的に広げます。その先には、想像を超えた自らの変化とともに、変化した自分が起こす組織、地域、世界の変化があります。

ミッションステートメント Misson Statement

HBMS (Hiroshima Business and Management School) では、<起業する>、<イノベーションを起こす>、<マネジメント力を高める>、<事業を承継・発展する>といったビジネスパーソンのニーズに応えたマネジメント力の育成に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的マネジメント力の開発によって、日本の地域あるいは世界で求められる次世代型リーダーを育成、輩出することを目指します。

HBMSの目指す人材育成像とは

今、日本における労働環境は大きく変化しようとしています。リスクリングやジョブ型雇用という言葉がよく使われるようになりましたが、その本質は、これまでのジェネラリストを重視する雇用の時代が終わり、「プロフェッショナル」の時代になったということです。

プロフェッショナルという表現は「専門職」と混同して使われていることが多いのですが、本来は、専門職は「スペシャリスト」という意味であり、プロフェッショナルとは明確な定義の違いがあります。プロフェッショナルとは、「学問的体系に基づいた高度スキルを活用して依頼人の課題解決をし、その対価として報酬を得る」ものを指します。

今までは、医師や弁護士等のプロフェッショナルが活躍していましたが、分野や職業を超えて、プロフェッショナルに対する社会的ニーズが高まっています。HBMSでは、多様かつ高度スキルを持った人材を大学院レベルで育成することを目指して、単に座学的「学問」では達成できない、いわば、頭だけでなく体も使って覚える「身体知」というべき訓練を行い、プロフェッショナルを養成していきます。

専攻長のメッセージ



ビジネス・リーダーシップ専攻長／教授

江戸 克栄

Katsue Edo

AIや情報処理技術の急速な発展は、社会システム及びそれを取り巻く環境を変化させています。その多様な変化の中で適応していくために、従来の「個人価値」や企業を含めた「組織価値」だけでなく、「地域や社会の共有価値（コモンズ価値）」を含めた価値転換が求められています。

グローバル社会による「世界と日本」、地方創生における「都市と地方」、マーケティングが生み出した「企業と消費者」、企業経営のための「ジェネラリストとスペシャリスト」、サステナブル社会の中で焦点が当てられた「経済価値と社会価値」。このような従来型の2つの対立軸やトレードオフ関係から出てくる択一的選択の発想から脱却し、両者が同時に成立する新しい第3の軸をイノベーションによって生み出すことが、農林水産業、製造業、サービス産業が生き残っていくための必要条件となっていきます。

HBMSはこのような時代の中で、多くの分野で第3の軸によって生み出された新しい価値をコモンズ価値へと発展させることのできるプロフェッショナルなビジネスリーダーを育成することを目指しています。

■専門分野

マーケティング、マーケティング・リサーチ、地域ブランディング、防災マーケティング

■学歴・職歴

慶應義塾大学商学部卒業 慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了
慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学
文化女子大学（現文化学園大学）専任講師、准教授を経て、教授

■主要著書・論文

『循環するファッションー新しいデザインへの挑戦ー』文化出版局、2013年（共同監訳・監修）、『戦略的マーケティング：レビュー、体系、ケース』芙蓉書房、2008年（部分執筆）

修了認定・学位授与の方針 Diploma Policy

本研究科では、「起業する」、「イノベーションを起こす」、「マネジメント力を高める」、「事業を承継・発展する」といったビジネスリーダーの共通基盤となる能力に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的なマネジメント力を開発することによって、高度な専門能力と卓越した実践力を備えた次世代型リーダーの輩出を目指します。本研究科の教育課程において所定の修了要件を満たすなかで、上記の能力を涵養した学生に経営修士（専門職）の学位を授与します。

学位名称

経営修士（専門職）

Master of Business Administration (MBA)

教育課程編成・実施の方針 Curriculum Policy

本研究科は、修了認定・学位授与の方針に掲げる学修成果を達成するため、基礎科目、応用科目、専門科目、実践科目を編成します。各プログラムに必要な科目を段階的・体系的に配置し、講義・演習などの授業形態より、各科目の目標到達を目指します。

①基礎科目

当該科目に配置される授業科目は、経営系各分野の人材養成の基本となる授業科目です。

②応用科目

当該科目に配置される授業科目は、リーダーシップを発揮できる高度な専門能力を高めるための授業科目です。

③専門科目

当該科目に配置される授業科目は、多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総体としての価値を持続的に高め、いくマネジメント能力を養成します。専門科目は大きく4つの領域に分かれています。農林水産業を含む地域の自然資源のマネジメント力を養う「地域資源マネジメント」、人々の多様なニーズに応えた持続的な医療介護保障のマネジメントを学ぶ「ヘルスケアマネジメント」、インターネットを含めた共有の場「コモンズ」のありかたを学ぶ「コモンズマネジメント」に加え、専門的かつ先端的なビジネスやマネジメントを極めるための時代を捉えたテーマを取り上げる「特別テーマ」です。

④実践科目

当該科目に配置される授業科目は、ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めていきます。ビジネスプランを作成し、その実効性を検証することによって実践力の向上を図ります。学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で、研究科案内・シラバスに配点割合をあらかじめ示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識」、「分析力」、「思考力」、「事業創造力」、「実践力」について、判断する基準を各科目において設けた上で、開講中や期末に行うレポート・筆記試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したり学生相互に評価させたりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針 Admission Policy

本研究科は、創造的で活力のある経済社会を持続・発展させるために不可欠な、企業等組織の経営革新や新たな事業創造を絶え間なく実践していくビジネスリーダーを目指す学生を求めています。ビジネスリーダーを目指すにふさわしいチームリーダーを一定期間以上務めるなど、実務経験と社会経験（学生時代の活動も一部含まれる）を持つことを前提としています。次のような意思を持った社会人等の入学を想定しています。

〉マネジメントの知識と実践力を高め、新たなビジネスを創造したい人

〉イノベーションを起こし、広島から世界に発信したい人

〉地域創生に向けて自ら企画し、リーダーシップを発揮したい人

〉広く人脈を築くために、コミュニケーション能力を向上させたい人

〉人生の可能性を広げるために、高い意欲を持って経営学を学びたい人

以上のような学生を選抜するために、「オープン入試」、「企業・自治体派遣」の各入学選抜試験において、選抜課題では、読解力、思考力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を、口述試験では理解力・判断力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を測ります。

ビジネスリーダーを輩出する教育システム

教育プログラム編成の基本的な考え方



授業科目一覧 4つの科目区分を設定し、実践的な教育を展開 【修了要件:34単位以上】

基礎科目 17科目 【必要最低単位数:10単位以上(うち選択必修科目8単位以上)】
経営戦略、マーケティング、人材マネジメントといった経営学の基礎を学びます。
「使える」経営学を身につけるため、講義形式に加え、ディスカッションを多く取り入れ、自ら考える力を培います。

◆現代社会における 先端的マネジメント②	◇アカウント②	◇マーケティングA①★	◇マーケティング演習①★	中四国経済①	ビジネス統計②
◇ファイナンス基礎①	◇ファイナンスA①	ベンチャーの経営戦略②	◇経営組織と 人材マネジメント②	◇企業法務①	◇組織マネジメントと コンプライアンス①
◇経営戦略①★	◇経営と戦略思考①★	経営戦略演習①①	経営戦略演習②①	多様な価値と ファシリテーション②	

応用科目 15科目 【必要最低単位数:8単位以上】
〈起業する〉、〈イノベーションを起こす〉、〈事業を承継・発展する〉、〈マネジメント力を高める〉を実現するために基礎科目をさらに深め、
広げ、応用できる能力を高めます。さまざまな角度から応用力を鍛えるためグループワークを積極的に取り入れます。

マーケティング・ リサーチ①	マーケティング・ リサーチ演習①	マーケティングB①	ファイナンスB①	SME事業経営演習①★	AI演習①
スモールビジネスの ファイナンス②	イノベーション戦略②	多様性と 人材マネジメント②	戦略法務①	上場とコーポレート ガバナンス①	戦略としての 社会システムデザイン②
サプライチェーン マネジメント②	生産管理②	事業承継マネジメント②			

専門科目 27科目 【必要最低単位数:8単位以上】
〈地域資源マネジメント〉、〈ヘルスケアマネジメント〉、〈コモンスマネジメント〉の3つの先端分野に加え、社会のスピードにあわせアドホックに〈特別テーマ〉を設定します。多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総体としての価値を持続的に高めていくマネジメント能力を養成していきます。

地域資源 マネジメント	持続可能な 地域資源マネジメント②	アジアのSMO マネジメント①	アジアの環境 ビジネス創造①	地域ブランド戦略①	デザインマネジメント①	地域事業開発演習②★
ヘルスケア マネジメント	ヘルスケア情報の マネジメント①	ヘルスケアシステム①	ヘルスケアマネジメント (医療)①	ヘルスケアマネジメント (介護・福祉)①	医療介護の イノベーション②	医療流通の イノベーション②
コモンス マネジメント	社会イノベーション②	共生社会の理念と 事例②	社会的インパクトの 評価①	地域における 合意形成②		
特別 テーマ	特別研究A(グローバル ビジネスマネジメント)②	特別研究B(IoT社会の ビジネス創造)②	特別研究C(経営の リスクマネジメント)②	特別研究D(マネジメント アカウント)①	特別研究E (ファイナンス演習)①	特別研究F(スタンフォード 大学連携科目)①
	特別研究G(サービス マネジメント)①	特別研究H(HBMS アルムナイ講座)①	特別研究I(海外社会 システム研修)①	特別研究J(国際カンファ レンス企画運営)①	特別研究K(SMO フィールドワーク)①	

実践科目 2科目 【必要最低単位数:8単位】
ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めていきます。
ビジネスプランを作成し、その実効性を検証します。企業・団体等とも協力、連携して実施していきます。

◆プロジェクト研究1②	◆プロジェクト研究2②
-------------	-------------

※上記は令和6年6月末時点での情報です。今後、変更の可能性があります。

HBMS の特徴的な授業内容

基礎科目 応用科目

【現代社会における先端的マネジメント】

現代社会における先端的マネジメントについて専任教員全員で行うオムニバス形式の授業です。先端的マネジメントの基本的考え方、基礎的分野における先端的マネジメント、さらには本研究科が提供しているカリキュラムの4つの柱である地域資源、ヘルスケア、コモンス、特別研究の最先端の知識を講義形式中心に学習します。

【SME事業経営演習】

中小・中堅組織 (Small and Medium sized Enterprises) が99%を占める経済において、地域におけるSMEの活性化は不可欠です。本演習では、広島県内のSMEの実態を把握し、SMEが抱える事業課題に対する解決策を研究していきます。さまざまな産業のSMEが存在する備後圏域で、現地視察を行い、ケーススタディ等による事例研究を行いながら、今後のSME事業経営を実践的に考えていくことを目的とします。

【多様性と人材マネジメント】

グローバル化は地域企業や中小企業を巻き込む形で進化しています。本授業では国際経営における人材マネジメントを多様な人材の管理、すなわち「ダイバーシティ・マネジメント」と位置付け、①国際経営の理論、②国際人的資源管理の概要、③多様な人材のマネジメント手法に関して、理論的かつ実証的な考察を行います。

専門科目

【アジアの環境ビジネス創造】

アジア新興国・地域は、中国・インド・ASEAN 主要4カ国・韓国・台湾など国・地域によって成長速度は異なるものの、先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっています。各国・地域が、日本型の産業デザインとマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析します。

【医療介護のイノベーション】

わが国の医療介護は、少子高齢化の急速な進展、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより大きな転換点に立たされています。このような状況下で政府は、新たな時代に対応した医療提供体制を構築するため、見直しを行っています。本講義では、これからの医療制度や医療提供体制のあるべき姿を探り、医療・介護施設、薬局、関連企業、さらには業界がどのように変化するかなどを様々な事例を交えて紹介するなどし、学びを深めます。

【地域における社会的合意形成】

地域経営に、企業、市民、NPOを始めとする多様なプレイヤーが参画するようになり、立場や価値観の異なる参加者の知見を地域課題の解決に生かす社会的合意形成のあり方が模索されています。本授業では、現代の地域経営に不可欠な「社会的合意形成」の方法論を学びながら、学生自らが社会的合意形成プロジェクトを企画・運営できる力を身につけます。

【グローバルビジネスマネジメント】

グローバル化の進展は、あらゆる産業に大きな影響を与えるとともに、戦略上の重要なテーマになっています。本講義では、グローバルビジネスを取り巻く環境変化を理解した上で、①企業、②市場、③調達・生産等におけるグローバル化について、事例をもとにグループワークやプレゼンテーションを交え実践的に学習します。

【IoT社会のビジネス創造】

これからの社会やビジネスを大きく変えていく可能性を秘めるInternet of Things「モノのインターネット」と呼ばれる技術を技術的に深入りしないように学びつつ全体像を理解してもらいます。また、IoTを利用したサービスの現状調査をした上で、実装や実現をイメージしつつIoTを利用したビジネスを考案してもらいます。

【サービスマネジメント】

社会変化に適応し、進化を続ける「サービス」の現場に密着した講義とワークショップにより、「サービス」の根源から先端に至るビジネスの実態とマネジメントの構造について把握し、ユーザの行動変容の分析をおして、多様な連携を伴った事業構想や時代をゆく戦略立案を行います。

修了要件 2年以上在籍し、必修科目、選択必修科目、及び各科目区分の必要単位数を満たし、34単位以上を修得することが必要です。

科目区分	基礎科目	応用科目	専門科目				実践科目 (すべて必修科目)	合計
			地域資源 マネジメント	ヘルスケア マネジメント	コモンス マネジメント	特別テーマ		
必要単位数	10単位以上 (うち選択必修科目 8単位以上)	8単位以上	8単位以上				8単位	34単位以上

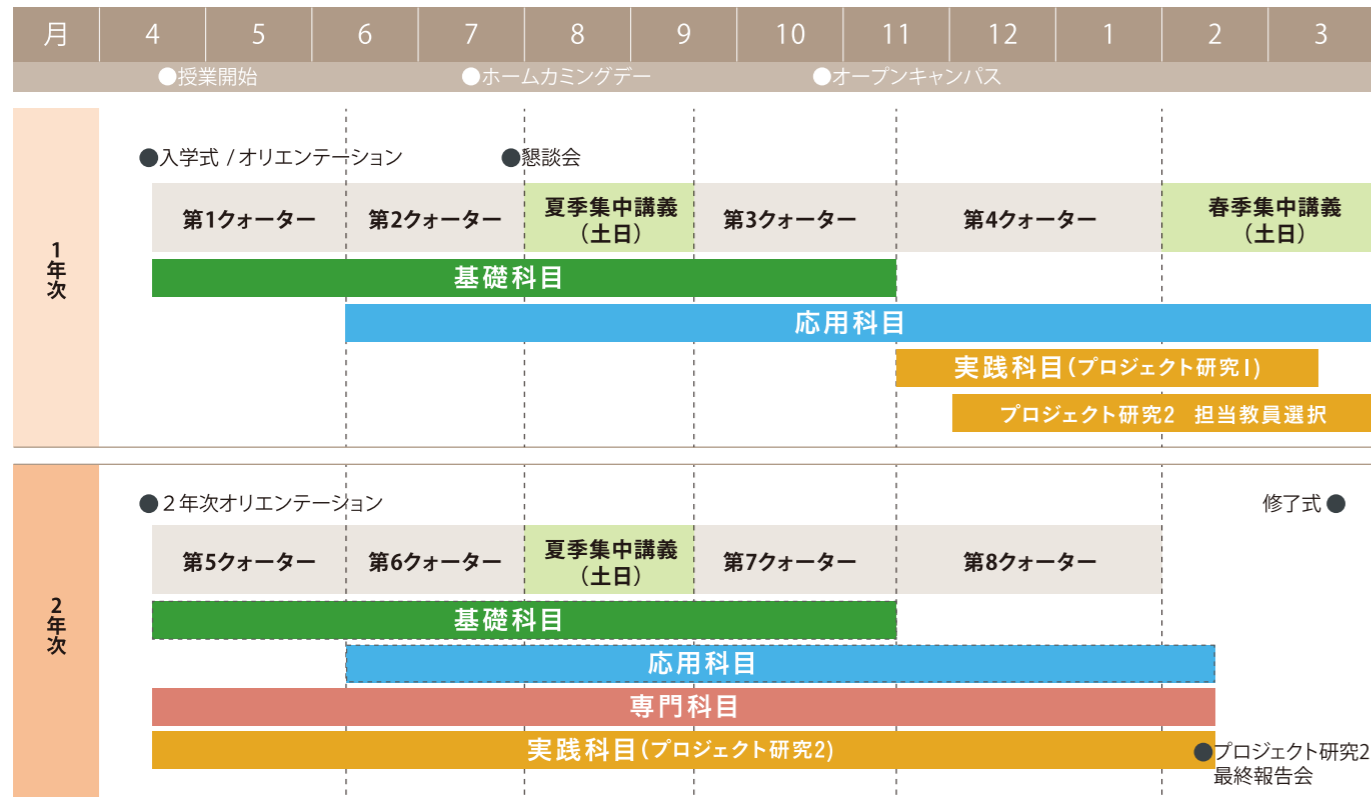
社会人に配慮した学修環境

HBMSでは働きながら学ぶための環境が整っています

- HBMSのMBAプログラムは2年制(日本語プログラムのみ)で、入学時期は4月の年1回です。
- 1年間を4つの学期に分割した「クォーター制」を採用しています。(2年間・計8クォーター。)
- 3月に入学前オリエンテーションや単位外の入門科目(オンライン講義が主)等の事前学修が始まります。
- 1年次は、基礎科目・応用科目が主となります。戦略・マーケティング、アカウントティング・ファイナンス、人事管理等、経営に関する知識・スキルを実践的に学ぶ選択必修の基礎科目から始まり、テーマ別の応用科目を興味に応じて学修します。第4クォーターからは実践科目「プロジェクト研究1」が始まり、2年次の「プロジェクト研究2」に取り組むテーマ(事業計画やプロジェクトの内容)を検討の上、担当教員の選択があります。
- 2年次は、専門科目・実践科目(プロジェクト研究)を中心に、興味に応じた学修を深めていきます。第8クォーターに最終成果物の提出や最終報告会(発表会)があります。
- 社会人学生が年間を通じて学べるよう大学が定める夏季休業期間、春季休業期間には集中講義があり、土日等に集中して学ぶ授業科目等が配置されています。
- 教育課程上の履修要件を満たす限り、各人の興味に応じ自由に授業科目を選択して履修できます。各人の履修の選択によって変動しますが、平均的な受講頻度は土曜を含め週2〜3日程度の通学(オンライン受講含む)です。
- HBMSの授業は原則、日本語ですが、国際交流協定を締結している海外大学等と連携した授業科目もあります(英語等の講義の場合、原則通訳有り)。
- 国際交流協定締結大学への訪問プログラム(海外研修)や来日受入プログラムなどが計画される年度があります(単位外プログラム)。

<p>授業時間</p> <p>平日18:30〜21:30(2時限)、 土曜日9:00〜19:30(6時限)に開講</p>	<p>通学頻度</p> <p>土曜日を含め週に2〜3回程度の通学*1で、 2年間でMBAの学位を取得 (*1 平日は1〜2回程度の通学)</p>
<p>受講方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義系科目は、ハイブリッド(対面・オンライン)で実施(オンライン受講は上限8単位) ・演習系科目は、原則対面で実施 ・広島キャンパス(南区宇品)で開講*2 <p>(*2 一部福山市内で開講)</p>	<p>集中講義</p> <p>大学が定める授業外期間である夏季休業期間(8〜9月)・春季休業期間(2〜3月)の週末には、集中講義型授業を開講(主に土日・祝日)</p>

HBMSの年間スケジュール(予定)



1科目から受講できるMBA単科受講制度(科目等履修制度)

HBMS入学前に科目を受講できる制度があります

単科受講制度(科目等履修制度)とは、HBMSの本科へ入学せずに、実際のHBMSの授業を受講し、単位を修得できる制度です。1科目から受講できるので、仕事・プライベートの都合を考慮して受講を決めることができ、色々なメリットがあります。

■1科目から本科生と同じ授業を受講できます

クラスでのディスカッション、グループワークなど本科生と同じ環境で受講ができます。

ご自身の学びたい科目のみを受講できます。*

(*単科受講が可能な科目一覧は、募集要項をご確認ください。)

■単位が無駄になりません

修得した単位は、本科生として入学後に本学が認めれば、既修得単位として17単位まで認定されます。

これにより、入学後に修得必要単位数が減り、学修スケジュールに余裕が生まれます。

■受講後に本科への出願が可能です

学修の分量や通学にかかる負担が分からないなど、仕事やプライベートとの両立が不安な方でも、実際に受講した体験を基に本科への出願を検討できます。

■4月と9月の年2回の入学チャンスがあります

HBMS入学の検討を始めてから本科生の出願を待つことなく、学び始めることができます。

単科受講(1年)から本科に入学した例

単科受講は半年単位・年2回募集です。

4月入学:第1・2クォーター及び夏季集中(4月〜9月) 9月入学:第3・4クォーター及び春季集中(9月〜3月)

MBA単科* (単科受講生(科目等履修生)としての入学)				MBA本科 (2年間)		MBA学位取得 (34単位)
1年目				1年目	2年目	
4月入学	9月入学	同年4月入学者の継続受講の場合、 入学選抜料・入学料免除	4月本科入学	3月本科修了		
第1クォーター	第2クォーター ・夏季集中	第3クォーター	第4クォーター ・春季集中	1年次	2年次	
(例)科目等履修生として4科目8単位履修した場合 (1科目/クォーターあたり)				入学後26単位以上の修得で 修了可		

*複数年にわたって単科履修が可能(但し1年ごとに科目等履修生として再入学手続き必要)

科目等履修生募集スケジュール

	前期募集 第1・5Q、第2・6Q夏季集中	後期募集 第3・7Q、第4・8Q春季集中
募集要項公表(HP)	1月下旬	7月中旬
出願期間	2月中旬〜3月上旬	8月上旬〜8月中旬
選抜結果通知	3月中旬	9月上旬
入学時期	4月上旬	9月下旬

科目等履修生に係る経費

選抜料	9,800円
入学料	県内の方 28,200円 県外の方 39,480円
聴講料	1単位あたり14,800円 ※1単位と2単位の科目があります



教授 **安達 巧** Takumi Adachi

■専門分野 起業、会計、企業法、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス
 ■学歴・職歴 博士(経済学、東北大学)&修士(法学、東北大学)。会社及びコンサルティング事務所経営等を経て現職
 ■主要著書 『コーポレートガバナンスと監査と裁判所』ふくろう出版、2014年、単著。日本図書館協会選定図書『コンプライアンス—ハラスメント事例研究—』ふくろう出版、2018年(編著・共著)『不正会計とわが国の投資家保護』ふくろう出版、2020年(単著)『アントレプレナーシップと戦略経営—ビジネススクールでの実践—』ふくろう出版、2021年(監修・共著)
 一般事業会社経営(代表取締役社長)や税理士資格も活かした経営コンサルティング事務所経営(代表)の経験があり、経営「現場」(実務)に通じています。また、法律にも詳しいです。実効あるコーポレートガバナンスやコンプライアンスがイノベーションを促進する役割を果たすことを熟知したうえでイノベーション人材(アントレプレナー)育成を行っています。



教授 **遠藤 邦夫** Kunio Endo

■専門分野 病院及び薬局経営、医薬品流通、製薬産業
 ■学歴・職歴 矢野経済研究所入社、文部省統計数理研究所委託研究員を兼務、矢野経済研究所ライフサイエンスユニットフェロー
 ■主要著書・論文 『看護経済学』法研(2002年9月、共著)、その他、矢野経済研究所から医療等に関するレポートを多数執筆
 医療について川上(行政)から川下(医療機関、薬局など)までで生じている変化を調査・分析し、そこで活動を行っているさまざまなプレーヤーにどのような影響を及ぼすのか。さらには、その変化に対してどのような対応策を講ずることが有効なのかなどを研究しています。また、実際に医療関連企業などに対してコンサルティングを行っており、実践的な経営戦略の最新の情報を基に研究を進めています。



教授 **木谷 宏** Hiroshi Kitani

■専門分野 人的資源管理論、ダイバーシティ・マネジメント、経営組織
 ■学歴・職歴 東京大学経済学部経済学科卒業 ジョージ・ワシントン大学大学院公共政策研究科修士課程マーケティング専攻修了(MBA) 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程総合政策専攻単位取得退学博士(経営学、麗澤大学) 食品企業 経営企画部長 学習院大学経済学部特別客員教授 麗澤大学経済学部教授を歴任
 ■主要著書・論文 『「人事管理論」再考 多様な人材が求める社会的報酬とは』生産性出版、2016年『ビジネスキャリア検定標準テキスト 人事・人材開発2級』社会保険研究所、2014年(監修)
 人事管理論(または人的資源管理論、人材マネジメント論)は経営学において模索を続ける比較的新しい研究領域です。組織の視点による「働かせ方」と個人の視点による「働き方」を結び付け、変化し続ける社会における「働くこと」の意義とあり方に焦点を当てた研究を行っています。



教授 **七田 良彦** Yoshihiko Shichida

■専門分野 ファイナンス、管理会計、経営学、リスク・マネジメント
 ■学歴・職歴 慶應義塾大学経済学部卒業、三井物産株式会社経理部、米国三井物産株式会社経理部(New York)、物産ナノテク研究所 取締役(在茨城県つくば市)、PT物産オートファイナンス 取締役(在Jakarta)、三井物産エレクトロニクス 常務取締役、三井農林 取締役、サンエイ糖化 取締役 他、青山学院大学非常勤講師、亜細亜大学非常勤講師(兼務)
 40年の実務(総合商社:CFO部門)を通じ内外の各拠点(含む子会社)で事業経営の経験を積み重ねました。経営環境の想定外の変化(急速な円高、通貨危機、流動性危機、テロ、大震災等)に直面、その対応策を現場で考え、実践し、一定の成果を上げる、という生きたリスクマネジメントを経験しています。



教授 **早田 吉伸** Yoshinobu Soda

■専門分野 経営戦略、新事業開発、サービスデザイン、DX(デジタルトランスフォーメーション)
 ■学歴・職歴 日本電気株式会社(NEC)経営企画本部マネージャー、社会公共ビジネスユニット本部長代理、内閣官房IT総合戦略室主幹 他、博士(システムデザイン・マネジメント学)(慶應義塾大学)、中小企業診断士、地域活性化伝道師(内閣府)、ひろしま環境ビジネス推進協議会会長
 ■主要著書・論文 「地域イノベーションのためのインクルーシブデザインプロセス」公共コミュニケーション、2020年、「国内外事例分析に基づく日本型フューチャーセンターのデザイン」地域活性研究、2012年 他
 イノベーションをテーマに社会システムとビジネスシステムを対象に学際的な研究をしています。理論研究にとどまらず、企業や行政機関での実務経験をもとに、成果の実現や社会実装を目的として実証的に行っています。



教授 **露木 真也子** Mayako Tsuyuki

■専門分野 社会イノベーション、社会起業家、社会的企業、地域間比較研究、援助・地域協力
 ■学歴・職歴 金沢工業大学大学院工学研究科知的創造システム専攻修了・修士(工学)、東京工業大学大学院社会理工学研究科社会学専攻修了・博士(学術)、特定非営利活動法人国際社会起業サポートセンター 理事長
 ■主要著書・論文 『社会貢献によるビジネス・イノベーション—「CSR」を超えて』丸善出版、2012年(共著)、「社会イノベーションの普及志向」日本地域政策研究、2017年(単著)
 未来のありたい姿をインパクト・ゴールとして共有し、一丸となって社会的課題の解決に取り組むための場づくり・枠組みづくりに寄り添いながら、誰一人取り残されない地域共生社会の実現に貢献していきたいと思っています。



教授 **百武 ひろ子** Hiroko Hyakutake

■専門分野 合意形成、ソーシャルデザイン、まちづくり、感性哲学
 ■学歴・職歴 早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院理工学研究科修士課程修了、野村総合研究所研究員を経てハーバード大学デザイン大学院都市デザイン修士修了(MLAUD)、東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻博士課程修了・博士(工学)、一級建築士
 ■主要著書・論文 『食生活のソーシャルイノベーション』晃洋書房、2020年(共著)、『環境と生命の合意形成マネジメント』東信堂、2017年(共著)他多数
 地域課題解決を目的とした市民参加型合意形成プロジェクトの企画・運営の経験をもとに、多様な主体によるコミュニティ運営の開発および合意形成をマネジメントできる人材育成について主に研究を行っています。



教授 **毛利 信作** Shinsaku "Sam" Mori

■専門分野 マーケティング、グローバルマネジメント、サプライチェーンマネジメント、アグリカルチャー、トレーディング
 ■学歴・職歴 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、三菱商事株式会社農産部、Sesmark Foods, Inc. President & CEO(アメリカ)、TH Foods, Inc. President & CEO(アメリカ)、三菱商事株式会社農産部長、同関西支社食料部長、三菱食品株式会社取締役常務執行役員酒類事業本部長、同取締役常務執行役員関西支社長、タイ、ベトナムにて複数の食品会社を立ち上げる。株式会社サラダクラブ、日東富士製粉株式会社等国内外で社外取締役を務めた他、神戸検疫協会会長や関西在流通各社主催の会の幹事も務めた。
 ■主要著書・論文 『「国際政治論考」- 国際政治のパラダイム』PAX創刊号、1982年、『タイ国に於ける投資環境』輸入食糧協議報、1988年他
 商社及び関連会社での国内外での幅広い実経験と経営の実績に裏打ちされた、学問にとどまらない実践的なビジネスモデルとビジネス・マネジメントに関して掘り下げています。



教授 吉川 成美 Narumi Yoshikawa

■専門分野 農業と持続可能な地域ビジネス、自然資源管理、CSA(Community Supported Agriculture)食料システム構築

■学歴・職歴 上智大学文学部卒業、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科環境と可能な発展論専攻修了(修士 国際関係学)、東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了(博士 農業経済学)、西安交通大学公共政策管理学院研究員・講師、早稲田大学教育・総合科学技術院非常勤講師、早稲田大学食と農の研究所招聘研究員

■主要著書 『食生活のソーシャルイノベーション』晃洋書房、2020年(共著)、『クライメート・チェンジ』清水弘文堂書房、2018年(監修・共著)、『共生主義宣言』コモンズ出版、2017年(共著)『高畠学』藤原書店、2011年(共著)、『中国の森林再生』御茶ノ水書房、2009年(共著)

修士課程では国際関係学、環境と持続可能な発展論を、また博士課程では農業と食の環境に研究対象を絞り、農業経済学を基盤としました。現在は、環境と持続可能なマネジメント、さらにはレジリエントな経営とは何かを、広く人びとが参加可能なCSA(Community Supported Agriculture)農業と食の実践から研究しています。



准教授 高橋 陽二 Yoji Takahashi

■専門分野 アントレプレナー、ベンチャー・ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、コーポレートガバナンス、アントレプレナーシップ

■学歴・職歴 大阪市立大学(現・大阪公立大学)商学部商学科卒業、神戸大学大学院経営学研究科市場科学専攻博士課程前期課程修了・修士(商学)、同後期課程修了・博士(商学)、岐阜聖徳学園大学経済情報学部専任講師・准教授、米国ハワイ大学マノア校シドラービジネススクール客員研究員、株式会社広島ベンチャーキャピタル取締役

■主要著書 『知識の基盤になるファイナンス』中央経済社、2018年(共著)、『オープン・イノベーションのマネジメント』有斐閣、2015年(共著)

創業して企業が成長する過程のファイナンス(資金の調達、投資)について実証的に研究しています。とりわけ、ベンチャーキャピタル(VC)、新規株式公開(IPO)を主要な分析対象としています。企業の成長過程で生じる様々なファイナンス上の課題を対象に、多面的なアプローチで取り組んでいます。



准教授 土本 康生 Yasuo Tsuchimoto

■専門分野 インターネット、情報セキュリティ、オンライン教育、ICT×ビジネス、国際化

■学歴・職歴 博士(政策・メディア)(慶應義塾大学)、慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別研究講師、Asian Institute of Technology (Thailand) Visiting Assistant Professor、東京大学 情報理工学研究所/工学部 国際工学教育推進機構 特任講師、横浜商科大学商学部経営情報学科 准教授

■主要著書・論文 『入門SNMP』オライリージャパン(監訳)、『TCP/IPネットワーク管理』オライリージャパン(監訳)、『インターネットの普及を目的としたネットワーク管理者育成モデルに関する研究』慶應義塾大学博士論文、『インセンティブ提示型デジタルバインド解決手法の提案と実施』電子情報通信学会(共著)、『Bandwidth Adjustable DVTS on the Heterogeneous Internet Environments for Distance Learning』SAINT(共著)

今後も社会を変える基本技術としてインターネットが存在し発展し続ける中、インターネットに関する研究を工学に限らず教育学や経営学、社会学など学際的な文脈で語ることで幅広く社会に貢献していきます。身の回りのあらゆるモノやコトを、インターネットを利用してどのように活性化し、新たなサービスや仕組みを作っていくかを皆さんと一緒に研究していきたいと考えています。



准教授 中村 嘉雄 Yoshio Nakamura

■専門分野 中小企業論、地域産業論、地域経済論、観光交通論 ■学歴・職歴 関西外国語大学外国語学部スペイン語学科卒業、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科(MBA)卒業、兵機海運株式会社営業1課、兵庫県商工会連合会経営支援課長、総務課長、指導課長、神姫バス株式会社地方創生担当課長、芸術文化観光専門職大学助教、神戸山手大学(現関西国際大学)非常勤講師、兵庫県立大学大学院経営研究科(MBA)非常勤講師、神戸国際大学非常勤講師、中小企業基盤整備機構実務アドバイザーなど

■主要著書 「地域における中小企業支援体制の構築」(共著)日本中小企業学会誌33号、2014年、「商工会産学連携事業調査と地方再生に向けた取り組み」(共著)神戸山手大学紀要第17号、2015年、「商工会・商工会議所の役割と併存地域の政策課題」日本地域政策学会誌第30号、2023年、「商工会における事業承継の支援について」芸術文化観光専門職大学紀要第2号、2023年、「鳥かごから墓場まで」荒木印刷、2010年、「時の流れ」荒木印刷、2011年、「現代中小企業の海外事業展開」(共著)ミネルヴァ書房、2013年

まず、地域に中小企業を持続的に存立していくため事業承継で企業を減らさないことが必要です。後継者がいないという理由だけで廃業してしまうのは、地域経済にとって大きな損失になります。そこで起業を志す学生が、第二創業として事業を承継する可能性に関する研究を行っています。次に、企業を増やす起業の3要素の有効性に関する研究を行っています。



特命准教授 島川 龍載 Tatsunori Shimakawa

■専門分野 医療経営、医療情報、消費者健康情報

■学歴・職歴 県立広島大学大学院経営管理研究科ビジネス・リーダーシップ専攻修了・経営修士(専門職)、川崎医療福祉大学大学院医療福祉マネジメント学専攻修士課程修了・博士(医療情報学)、IT企業のシステムエンジニア、地域中核病院の経営戦略、医療情報管理に従事。その後、県立広島大学HBMS地域医療経営研究センター特命講師を経て、現職。

■主要著書・論文 医療情報 第7版「医療情報システム編」篠原出版新社(共著)2022年、医療情報 第7版「情報処理技術編」篠原出版新社(編集、共著)2022年、「個人の健康行動に影響を与えるヘルスケア情報の新たな価値発現に向けた地域行政が担うPHRサービスの検討」日本遠隔医療学会(共著)2022年、「病院情報システムが関連した問題事象の根本原因を利用者行動指向で把握するための概念モデル」医療情報学会(共著)2016年 他

限られた経営資源(ヒト、モノ、カネ、情報)を遣り繰りして、地域DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するための研究を行っています。特に、地域創生におけるヘルスケア(保健・医療・介護)分野が抱える課題解決に寄与します。



講師 磯貝 日月 Hizuki Isogai

■専門分野 人類学的思考と経営、中小企業マネジメント、出版・編集、環境/民俗分野のフィールドワーク

■学歴・職歴 慶應義塾大学総合政策学部卒業、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科前期博士課程修了、総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻後期博士課程中途退学、早稲田大学教育学部兼担講師、学術出版社代表取締役を経て現職

■主要著書 『アサヒ・エコ・ボックス』アサヒグループホールディングス株式会社/アサヒビール株式会社、2001-2021年(編集発売)、『蒼いお尻のぼくとときみ。カナダ極北のイヌイット 内なる心の旅』清水弘文堂書房、2007年(単著)、『ヌナブト イヌイットの国その日その日 テーマ探しの旅』清水弘文堂書房、2001年(単著)他

これまでの約20年間、出版実務全般に携わりながら会社経営をしてきました。また人類学のフィールドワーク経験をもとに大学で講義、フィールドワークの設計・引率などの教育活動に携わってきました。経営(おもに中小企業経営およびマネジメント)×人類学(フィールドワーク)の実践的融合を目指しています。



客員教授

榎野 孝人

株式会社CAP 代表取締役

■専門分野 地域ブランド戦略、デジタルマーケティング、エンタテインメント
リクルートで人事、雑誌編集長などを経て、アイ・エム・ジェイの代表取締役に就任し株式公開。その後、広島県や京都府の特別職参与を務め、「おいしい!広島県」の企画で観光庁長官賞を受賞。

古我 知史

ベンチャーキャピタリスト
ウィルキャピタルマネジメント株式会社代表取締役
京都大学成長戦略本部フェロー

■専門分野 アントレプレナーシップ、リーダーシップ、経営戦略論、組織開発、ベンチャー企業論
早大政経卒、Monsanto、Citibank、McKinsey & Company等を経て当社創業。九大、龍大客員教授、(株)セルム非常勤取締役、(株)インバウンドプラットフォーム社外取締役等歴任/現任

非常勤講師

生稲 史彦

中央大学大学院戦略経営研究科
(中央大学ビジネススクール)教授

■専門分野 技術経営。デジタルコンテンツのビジネス、企業におけるICTの活用などの分野の実証研究を専門としている。

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。一橋大学イノベーション研究センター専任講師、文京学院大学経営学部准教授、筑波大学システム情報系准教授などを経て、現職。

浦元 淳也

株式会社プランテックス
執行役員 経営戦略・マーケティング・広報

■専門分野 プロセステクノロジー、工程分析、3次元CAD、技術・技能・思考ノウハウの試算化・運用
株式会社インクス、株式会社KMC、株式会社ストーンスーブ設立、株式会社プランテックス

岡田 浩一

Ocada & Partners
Representative

■専門分野 SME事業経営演習、マーケティングA、マーケティング演習を担当。
株式会社電通初の事業コンサルティング部門ブランド・クリエイション・センターを立ち上げ、2015年から現職。
電通ではクライアントの海外市場への事業進出や外資企業の日本参入事業戦略多数。事業、ブランド、マーケティング、イノベーション、組織変革などのテーマで「戦略策定から実体化まで」一貫したコンサルティングをリード。傍、30年に渡り大学院各校のクラスを担当。

川島 孝之

アロウズ法律事務所
代表 弁護士 税理士

■専門分野 事業承継、民法(相続法)、租税法
早稲田大学大学院法務研究科卒業、三菱証券(現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券)、東京国税局

菅 由紀子

株式会社Rejoui 代表取締役

■専門分野 データサイエンス・AI
大崎上島町出身。サイバーエージェント、ALBERTを経て、2016年に株式会社Rejouiを設立。AI・データ分析利活用・コンサルティング、教育事業などを展開。企業や行政機関のデータ利活用、AIシステム開発を多数手掛ける。自身がアンバサダーを務めるデータサイエンス人材育成の活動(WiDS HIROSHIMA)が評価され、日本統計学会統計教育賞受賞

桑原 朋子

楓総合法律事務所 弁護士
日本証券アナリスト協会 認定アナリスト(CMA)

■専門分野 会社法、事業承継・事業再生、相続、金融法学会に所属
早稲田大学法学部卒業 広島大学大学院法務研究科卒業 大手証券会社 債券部・商品企画部等勤務 地方銀行 資金証券部等 勤務 広島県事業承継引継ぎ支援センター サブマネージャー(2019年5月～2023年3月)

小出 隆仁

医療法人真慈会 理事・事務長

■専門分野 小規模病院・クリニック経営
作業療法士(滋賀医療技術専門学校) 経営修士(専門職)(県立広島大学) SJF学会応用コース修了 広島県医療審議会保険医療計画部会地域医療構想調整会議評議員

河内 誉帆

外資系コンサルティングファーム・パートナー

■専門分野 戦略(事業、ポートフォリオ、M&A)、コーポレートファイナンス、資本市場・ガバナンス、企業変革

みずほフィナンシャルグループ(M&A、PE投資、事業再生、新興国)、IESEビジネススクール経営学修士課程修了、早稲田大学政治経済学部卒業

澤山 大輔

株式会社ホットリンク
マーケティング／広報

■専門分野 BtoBマーケティング、コンテンツマーケティング、SNSマーケティング
編集者歴20年、マーケティング歴9年

高田 禮榮

中電技術コンサルタント株式会社
都市・建築部長

■専門分野 まちづくり、都市計画、地域振興等に関わる調査・計画
徳島大学 工学部 建設工学科 卒業。徳島大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 修了。県立広島大学大学院 経営管理研究科 ビジネスリーダーシップ専攻 修了。技術士(建設部門:都市及び地方計画、建設環境、河川、砂防及び海岸・海洋)。技術士(経営工学部門:サービスマネジメント)。技術士(総合技術監理部門:都市及び地方計画)

高橋 龍二

広島県職員(江田島市派遣)
江田島市産業部長

■専門分野 アグリビジネス 起業工学 農業経営学 ネットワーク理論
県の産業振興(農林水産 商工 観光 企業誘致 ベンチャー支援)に従事

中川 隆喜

アイル監査法人 パートナー
公認会計士 税理士

■専門分野 アカウンティング
早稲田大学人間科学部卒業
山陽コカ・コーラボトリング株式会社(現 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)において、マーケティングに関する部署で従事
公認会計士試験合格後、有限責任あずさ監査法人を経て現職に至る

柘原 茂

広島市役所 水道局次長

■専門分野 地域事業開発、地方公営企業の経営戦略
広島市で長年にわたり行政事務に従事。水道事業では、お客様対応から、長期的な事業経営の企画や経営戦略の策定、さらに、自治省(現総務省)では全国の水道事業者への助言等業務まで、幅広く経験。また、一般行政では、行政改革推進担当や企画調整部、市長室政策調整課での職務を経験。2022年から「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」アドバイザー。

的打 英明

株式会社makotono 代表取締役

■専門分野 医療、介護経営、福祉現場の業務生産性向上、リーダーシップ
SOMPO ケアネクスト株式会社(現 SOMPO ケア株式会社) ホーム長

山梨 広一

イオン株式会社顧問、
マッキンゼーシニアアドバイザー、
東京大学EMPエグゼクティブ・ディレクター、
東京大学総長室アドバイザー

■専門分野 経営全般、戦略全般
富士写真フイルム、マッキンゼーパートナー、シニアパートナー、イオン株式会社専務執行役、顧問、株式会社LIXILグループ取締役、執行役社長など

在学生のスケジュール

江藤 良輔さん HBMS 1年生(9期生)
 広川株式会社 経営企画部 係長



広島F・DO所属のフットサル選手としての現役生活を2年前に終え、広川グループに就職。経営企画部で新規事業の立ち上げと管理に携わっています。社会人としての経験値を補うために中小企業診断士の勉強を自学で始めましたが、7期生だった弊社の社長にすすめられHBMSに入学しました。対面授業で先生から教わることで、テキストだけではわからない本質まで触れることができ、演習での実践を通して知識が身に付いていく感覚があります。いちばん大きいのは、いっしょに学ぶ仲間がいること。自分では考えつかないような視点での質問やディスカッションを重ねることで、視野が広がっていくことを感じています。

課題やプレゼンで自分の考えをアウトプットする機会がたくさんあるなかで、自分自身、強い思いや行動力は持っていますが、相手を納得させる根拠やエビデンスといった武器が足りないことに気づかされました。その武器を手に入れることで、ビジネスの世界でもっと強くなるためのトレーニングをしている。それが今、私がHBMSで学ぶ意味だと思っています。

広川グループの主幹事業である食とエネルギーは、時代によって在り方が変化していくため、新規事業の創出は不可欠。「地域と人々に活力と笑顔を与える」という会社のビジョンと、選手時代に支えていただいた広島に恩返ししたいという私自身のビジョンを形にするため、食とエネルギーとは別の角度で地域に貢献する事業を創り出したい。そして、ビジネスとして成功させるための方法を、2年間の学びで獲得していきたいと思っています。

第2クォーター（6月上旬～8月上旬）の江藤さんの時間割

時限	月	火	水	木	金	時限	土曜日
						1・2限 9:00～12:10	
						3・4限 13:00～16:10	アカウントिंग
6・7限 18:30～21:30		AI演習		ファイナンス 基礎		5・6限 16:20～19:30	



結城 奈津子さん HBMS 2年生(8期生)
 マツダ株式会社 MDI & IT本部 グローバルIT事業部 システム戦略統括グループ シニア・スペシャリスト



入学して1年間は、仕事と家庭と学びを両立させながら一つひとつの授業をこなすのに精いっぱいでしたが、2年になって履修を増やすなど、残りの時間を悔いのないようにペースを上げているところです。

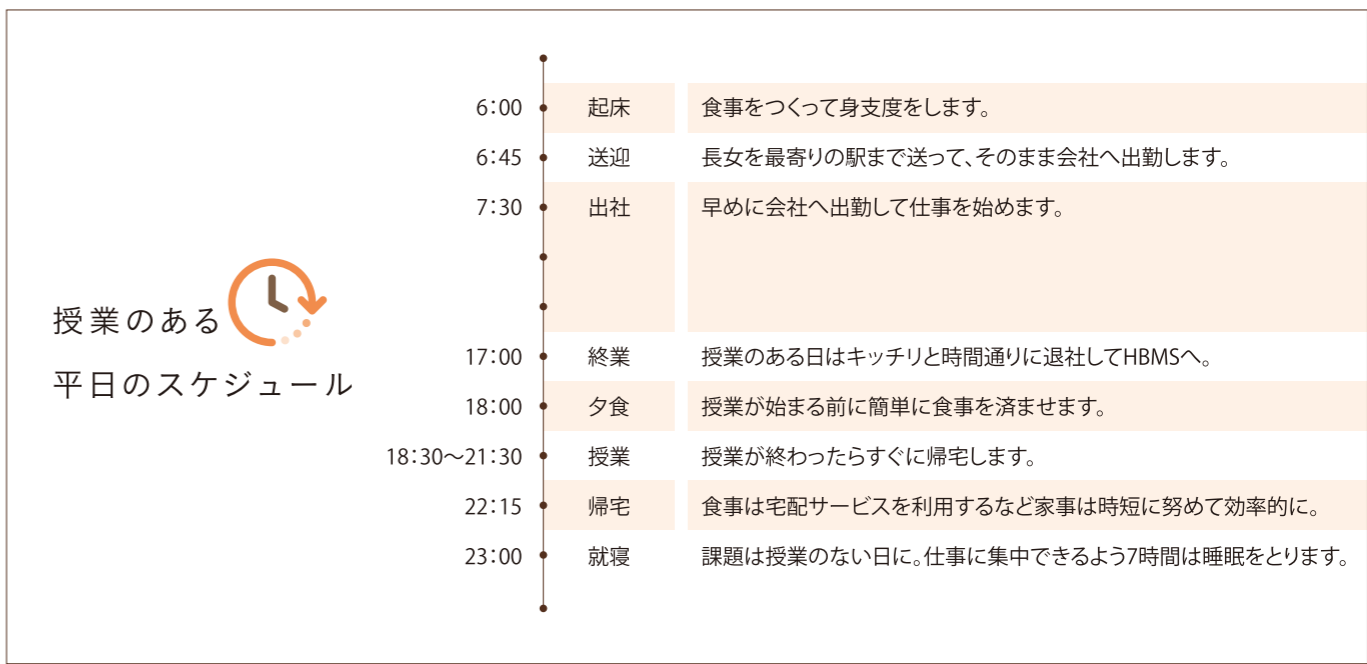
テーマを絞らず幅広く基礎科目を学んだことで、自分の得意なこと、苦手なことがクリアになり、今は強みや得意な分野を伸ばして生かすことを追求しています。日々の課題も考え込んで夜遅くまでかけていましたが、最近はいい意味で割り切れるようになり、「ここから2時間で仕上げる」と集中を高めて取り組んだり、仕事の休憩時間にスマホにメモしておいたり、この1年でかなり効率化できました。

1年生の時に取れなかった科目を今年履修したことで9期生ともつながりができ、ゼミでは先輩との交流も活発なので、自分たちの研究内容を聞いてもらったり、壁打ちをしてもらったり、身近に相談できる存在がいることは本当に心強いです。会社で人事担当になったことで、経営の知識を身に付けたい、広島に仲間をつくりたいというのが入学の目的でしたが、それだけでなく、ここでしか得られない体験や人との出会いが何事にも変えがたい財産となりました。

学ぶことの大切さを身をもって感じたので、この勢いを止めることなく、卒業後は国家資格キャリアコンサルタントの資格取得にチャレンジするつもりです。HBMSのネットワークを生かして、職場だけでなく、地域にも還元できるよう、学び続けたいです。

第6クォーター（6月上旬～8月上旬）の結城さんの時間割

時限	月	火	水	木	金	時限	土曜日
						1・2限 9:00～12:10	IoT社会の ビジネス創造 〈隔週〉
						3・4限 13:00～16:10	
6・7限 18:30～21:30	経営と 事業戦略		デザイン・マネジメント 〈隔週〉 地域ブランド戦略 〈隔週〉			5・6限 16:20～19:30	プロジェクト研究 2



修了生インタビュー

※所属先については、令和6年6月末時点での情報です。

吉原 亜矢子さん HBMS 1期生 株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション エリアプロデュース事業部 部長

HBMSの学びと2度のキャリアチェンジで目指すステージへ



グローバルとローカルをつなぐ仕事がしたいというぼんやりとした想いを抱えながら、自分が成長できる道を模索しており、将来的に自分がやりたいことを見つけた時に経営の勉強をしておけば選択肢が広がるのではないかと期待が入学のきっかけでした。在学中は広告会社に勤めておりましたが、修了後グローバルビジネスへ関わるチャンスが訪れ、海外進出支援コンサルタントへ挑戦。その後、現職の観光における事業開発や地域づくりなど地方創生コンサルタントに従事。キャリアチェンジで培ったグローバルビジネスでの実践・経験とHBMSでの学びにより、今ではインバウンド観光に携わることで「グローバルとローカルをつなぐ」仕事ができるステージに立っていると実感しています。また、修了から5年以上経った現在でも修了生同士のネットワークは健在で、共にビジネスをしたり、お互いに影響を与え合う関係性を継続しています。今後は、せとうちを世界一の観光地にするため、修了生ネットワークを活かし、せとうちエリアの活性化に貢献していきたいと思っています。

石原 かおりさん HBMS 3期生 株式会社 Happy relations 代表取締役 一般社団法人ソーシャルケアビューティー 理事

中年の転換期を学び直しにより軌道修正

2010年に美容室をメインとしたコンサルティングの会社を設立しました。起業してから勤と経験と体力任せで事業を進めていましたが、顧客に対して最先端のサービスを提供するには、自分自身ももっと学ぶ必要があると感じていました。HBMSで学んだことで、良かったことはたくさんありますが、人とのつながりを持てたこと、考え方を学び直せたことが特に大きかったと振り返ります。経営に必要な知識を学べるだけでなく、自分で考え、実践して、検証することをできるだけ早く回すこと(PDS)を自然とできるようになったことは実務でも存分に活かしています。当時は漠然とわかったような気になっていたSDGsやCOMONSなど物事の本質に触れ、わかるようになるまで学べたことも私にとって収穫だったと思います。私の仕事の仕方は、入学前までは美容室の営業後の時間帯や土・日曜に及ぶこともあったため、初めは、仕事と学業の調整に苦労しましたが、これまでやっていた業務を人に任せると、タイムアップするかの二択で整理しました。今では在学中に行っていた時間のやりくりを継続し、基本的に土・日曜は休みに。仕事のスタイルを見直すよききっかけにもなったと思っています。



松本 博治さん HBMS 6期生 株式会社ダイセル 大竹工場生産部 セルロース室 担当リーダー

突破のカギは方程式ではなくアスピレーション



社内の長期ビジョン策定プロジェクトに参画した際、事業の変革や組織のイノベーションに関する知識がないことを痛感。知識だけでなく、実践を通して学んでみたいと考え、HBMSの門を叩きました。入学当初は、成功や失敗といった多くの事例を学び、共通要素を理解すれば成功の黄金律が浮き彫りになると考えていました。しかし、2年間の結論は「そんなものはない!」ということ。成功企業の中には、従来の常識では非効率とも見える手段を選択し、イノベーションのジレンマを華麗に、泥臭く突破していました。成功の方程式はなく、さらに一見すると非効率なやり方であればあるほど、その一歩を踏み出すには勇気が必要です。この壁を超えるには、ベースとなる知識や理論はもちろんですが、強烈なアスピレーションが絶対条件です。業種も立場も年齢も違う同期とともに、それぞれが抱えるリアルすぎる課題、ジレンマ、そして夢を語り、共感しあうことで私の世界は一気に広がりました。世の中には無数の課題が存在していますが、その見え方、捉え方は3年前と大きく変わりました。人生に大きなインパクトを与えてくれるHBMSでの学びを通して、「誰かがやる。ではなく、自分たちがやる」というアスピレーションを持って、ともに新しい未来を描いてみませんか。

水谷 之則さん HBMS 2期生 オリックス・ホテルマネジメント株式会社 クロスホテル大阪 総支配人

能動的に攻める姿勢をホスピタリティ業界に生かす



人生40代に突入した時、自分は現状の役職に見合った仕事をしているのか、このまま同じキャリアで上をめざすのか、さまざまな迷いが生じ新しい刺激を求めてHBMSでの学びを決意しました。修了後大阪の外資系ホテルに転職し、現在は総支配人を務めています。HBMSで「マネジメント力を高める」能力開発を中心に実践的に鍛えられたおかげだと実感しています。ホテルなどのホスピタリティ業界は、コロナ禍にあって大きなダメージを受けました。回復基調の中、地域資源の活用や地域の魅力の創出・発信など、能動的な動きが今できているのはHBMSでの学びがあったからこそです。そして、人生の転機を迎え、何より財産となったのは多くの創造的かつ挑戦的な人たちとの出会いでした。利害関係なく他人と話せる機会は社会人にとってなかなかありません。HBMSで共有したあらゆる夢や悩みは、人としての器を大きくしてくれるものと確信しています。実は、一昨年少し時間を作ってHBMSで短期間の講義を履修しました。HBMSは戻っていく場所であり、人生の中でとても心地いい空間だとあらためて思います。

小林 靖孟さん HBMS 5期生 広島市立北部医療センター安佐市民病院 救急科 副部長 (広島大学 救急集中治療医学教室 所属)、日本救急医学会 救急科専門医

新たな視点を手に入れて理解の幅を広げる

救急科の専門医として経験を積むなかで、指導的立場となりマネジメントや部門間連携の面で力不足を感じていました。私自身、専門技能を社会の価値に変換したいという思いがあったことから、医学博士や公衆衛生学、病院経営の修士ではなく、ビジネス的知見を広げるためMBAを目指しました。知識やコミュニティを広げるため、アカウントティング、ファイナンスなど医療とは関わりのない科目を積極的に履修するよう心掛けました。その副次的な効果として、本来の専門である医学・自然科学の視点に加えて、経営・社会科学の視点を獲得ことができ、2つの視点で物事をより深く理解できるようになったと感じています。ともに助け合い、悩み、刺激あった同期の絆は固く、未だにみんなで集まってアイデア出しをしたり、ディスカッションをしたり、まるで学生の延長のようです。今は、同期が立ち上げた「ひろしまりビングラボ」など、まちづくりの活動にも参加しています。今後は救急医としての専門性も磨きつつ、医療や社会の課題解決に貢献できる人材になりたいと考えています。



登 景子さん HBMS 4期生 株式会社ケン・リース FROM EATS PR 担当

学びやスキルを活かし 地域経済の循環を形に



HBMSのゼミ仲間が研究の一環として取り組むなかで発案して立ち上げた、FROM EATSという事業に修了後からチームメンバーとして参画しています。FROM EATSは、「食でまちを笑顔に!」をスローガンに掲げた、つくる人(生産者・飲食店)と、わたしたち食べる人(消費者)との繋がりをより豊かにすることを目指したプロジェクトです。地元野菜の定期便を軸にしたサービスと、農や食を楽しむコミュニティづくりに取り組んでいます。ブランドをつくりあげていく段階なので、まさにマーケティングの授業で学んだことを実践しながら、改めて学び直しをしています。在学中は、異業種の同期たちから多くの刺激を受け、講義やゼミでの学びを通じて、今いる場所で自分が目指したいものが明確になりました。「心が豊かになる地域経済の循環をつくりたい」という想いを共有する仲間に出会って、FROM EATSの事業に参画できたのも全てHBMSがあったからこそ。授業時間以外にも家で取り組む時間も多かったのも、サポートしてくれた家族にも感謝しています。



HBMS COMMUNITY

(県立広島大学MBA同窓会)



HBMS COMMUNITY 会長
川村 太一さん
HBMS 6期生
株式会社マイフェイヴ 代表取締役
ファイナンシャル・ジャパン株式会社 所属

HBMS COMMUNITYは、HBMSを修了した後もお互い学び続けることができる場として、また、修了生、在学生、教職員などを継続的に結びつけるコミュニティを創造することを目的として設立されました。現在の会員数は、約270名を数え、活動の幅を広げています。



会報誌

入学当初は授業と向き合うことに必死になり、同期以外のつながりができるとは思ってもいませんでした。ところが、徐々に仕事と学業の両立ができるようになると、先輩・後輩との交流から、心がゆたかになれる仲間が増えていきました。入学しないと出会うことができない多様な仲間ができたことが、私にとっての一番の財産です。修了後は、意識しないと仲間と会う機会が減っていきます。ただ、そこにHBMS COMMUNITYがあることで、皆が常に近くにいるように感じることができ、もっと躍動しようというモチベーションになっています。

HBMSは、広島から世界で求められる次世代型のリーダーを育成、輩出することを目指しています。先生方の教育も秀逸で、高いビジネスマネジメント力を養うことができます。

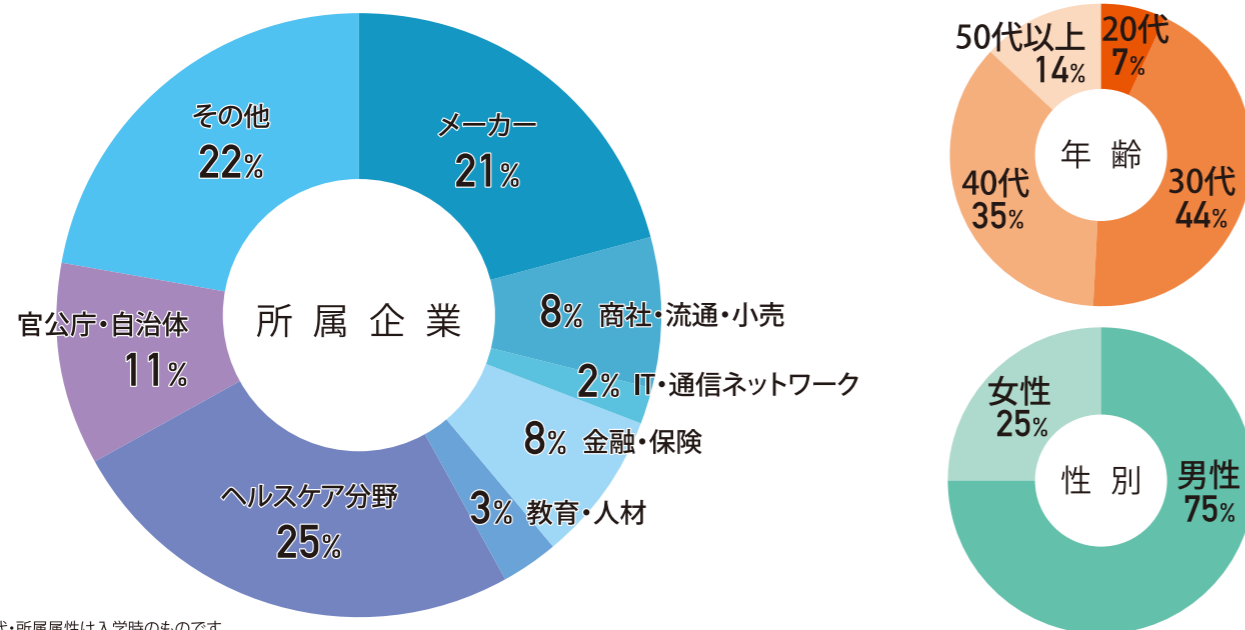
HBMS COMMUNITYは、在学生・修了生・教職員の先生方との継続的なつながりを紡ぐものです。HBMSという学び舎だけでなく、HBMS COMMUNITYという輪があるからこそ、私たちは継続的に変化と成長の機会を得ることができます。

人生一度きり。HBMSへ入学して、刺激的な2年間を思う存分楽しみましょう！



(左上から時計回り) ホームカミングデー(親睦会)、シンポジウム(ビジネス協奏会)、オープンキャンパス、理事会

HBMS DATA <在学生・修了生のプロフィール> HBMSでは様々な業種、年齢の学生が学んでいます。

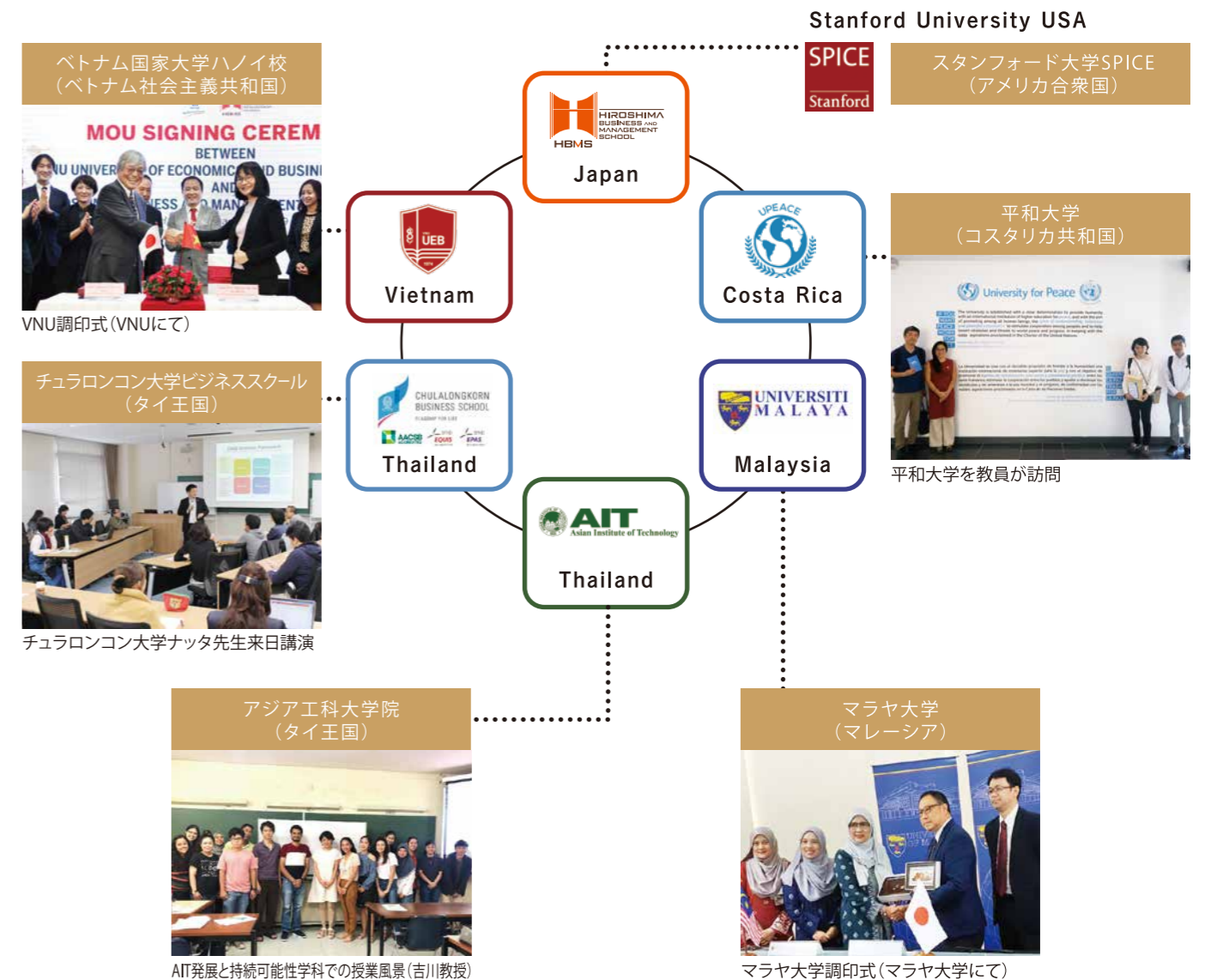


※年代・所属属性は入学時のものです。

国際交流

HBMSでは、国際的な視野を持って活躍できる人材の育成を図るとともに、MBA教育プログラムの卓越化に取り組むため、海外先進大学との連携強化を図っています。

HBMSの国際交流協定締結校は、4か国5大学



スタンフォード大学連携科目

スタンフォード大学は、世界にイノベーションを送り出すシリコンバレーにとっては欠かすことのできない教育機関です。そのスタンフォード大学とHBMSが独自のWEBオンライン授業を共同開発しました。起業家や専門家のゲストスピーカーの講義を通して、イノベーションやアントレプレナーシップについて学びます。



HBMSに学生を派遣する企業の声

※以下の情報は一部変更の可能性がります。

HBMSでは、企業、自治体、その他組織から派遣される社会人学生を広く受け入れています。2年間HBMSで学んだ「人材」は、組織にとって貴重な「人財」となります。スキル人材の育成・訓練で成果を上げるためには、「知識」「技能」「知恵」の三要素をすべて訓練する必要があります。HBMSに社員・職員を派遣することで、ビジネス・リーダーを育成することができます。

HBMSは地域活性化のプラットフォーム 株式会社ひろぎんホールディングス 代表取締役社長 部谷 俊雄さん



当社グループの広島銀行では、HBMSが開設された2016年から、隔年で行員を派遣しています。派遣の目的は、将来の幹部候補生を養成するにあたり、経営のベースとなる戦略、あるいは論理的思考を身につけることです。海外や国内のMBAもありますが、HBMSは地域に根差しているということが、地元広島の地方銀行にとって魅力的です。現在在籍している2名を含めた10名を派遣したのですが、修了した8名は、地方創生に関わる業務、企業の事業性評価に関わる業務、あるいは個人の方々の相続のサポートをする業務に携わっており、地域のお客様のことを思い、しっかりと対応をしてくれています。今後、HBMSには、広島の各企業で働いている方、経営者の方々など、多様な学生が多く学ぶことにより、そこでネットワークを作り、広島が活性化するような事業、あるいは新しい試みも含めて積極的にチャレンジしていただけるようなプラットフォームを作りたいと思っています。HBMSで学んだ人材が我々グループを引っ張ってもらおうと同時に、地域を活性化してくれることを望んでいます。

HBMSで経営の視座・視点を持つ社員に オタフクソース株式会社 代表取締役社長 佐々木 孝富さん



オタフクソースでは、HBMSが開設された2016年から現在まで7名の社員を派遣しています。派遣の目的は、中期の方針や計画の策定、各事業や部門別の戦略策定や推進、新事業の開発をする人材が必要だからです。私も1年間ビジネススクールに通った経験がありますが、学び舎の人達は高い志を持って真剣に学んでおり、かけがえのない仲間にもなります。恩師の方々とも繋がるのが出来、全てが貴重な縁となり今も交流が続いています。同じようなことがHBMSにおいてもあると感じています。HBMSで学んだ社員は、視座が上がっており、それによって視野が広がり、そして違った視点を持つようになっています。新しい発想力を持って、お客様を始め社内外の方々に喜んでいただけるようなことを、彼ら自身が導き出して提案してくれることを期待しています。広島の地場ならではの繋がりは大事ですし、体系的な学びが出来る事は非常に貴重であるため、弊社としては定期的にHBMSへ社員を派遣したいと考えています。

HBMSを通じて、未来を切り拓く人材づくりを 株式会社ヒロテック 代表取締役社長 鵜野 徳文さん



ヒロテックは、HBMSの前身であった県立広島大学大学院社会人課程の創立以来、毎年1名の企業派遣を15年以上続けてきました。すでに派遣による大学院時代の卒業生は10名、HBMSになってからは3名の卒業生を輩出しています。このプログラムは、会社で実務経験を積んできた優秀な人材に対し、自社を客観的に研究し、社会環境を読んで新たな機会を深く考える機会を提供してきました。経営視点を醸成する高度な人材育成の場となっています。初期に派遣した卒業生は現在取締役に就任し、その後続く卒業生たちの多くも海外拠点への赴任やプロジェクト、新規ビジネスなど、戦略的にも重要な分野で幹部社員として活躍しています。私たちが属する自動車産業は現在急速に変化しており、電動化、自動運転、環境への配慮など、新たな技術とビジョンが世界で求められています。このような環境で、当社も広島から世界へ発信する企業として、常に変化に適応し革新的なアイデアを追求しています。HBMSへの派遣を通じて、私たちの未来を切り拓く人材を育てています。

「企業・自治体派遣」について

企業・自治体派遣(※)にて、社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は、令和6年11月22日(金)～12月12日(木)の間に事前の申請が必要となります。HBMS ウェブサイトの「入試情報」のフォームから必要事項をご入力ください。フォームは令和6年11月22日(金)に公開します。

※「企業・自治体派遣」には、社団法人・財団法人・NPO法人等の各種法人、法定団体等を含みます。

企業・自治体派遣での出願は下記の要件を全て満たす必要があります

- ① 企業・自治体に派遣制度があること。派遣制度がない場合は派遣制度を作る、又は作る予定があること。
- ② 被派遣者の選定において選抜基準があること。
- ③ 企業・自治体は、派遣した学生が学業に専念できるよう支援すると共に、必要に応じて業務の調整を行うなどの配慮をすること。

入学試験の概要

募集人員	選抜区分	選抜方法	
		一次選抜	二次選抜
25名	オープン入試 企業・自治体派遣	書類審査	選抜課題、口述試験

主要日程

選抜課題 公表	令和6年11月22日(金)頃
企業・自治体派遣 事前申請※1	令和6年11月22日(金)～12月12日(木)
出願資格審査※2	令和6年11月29日(金)～12月12日(木)
出願期間	令和7年 1月 7日(火)～1月20日(月)
一次選抜結果通知	令和7年 1月28日(火)頃
二次選抜試験日	令和7年 2月 1日(土)・2日(日)
合格発表	令和7年 2月10日(月)
入学手続	令和7年 2月12日(水)～2月25日(火)

※1 企業・自治体派遣にて社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は、事前の申請が必要となります。詳細は募集要項をご確認ください。
 ※2 大学の学部等を卒業していない方は、出願前に別途出願資格審査が必要です。詳細は募集要項の出願資格をご確認ください。

過去3年間の入試結果 (オープン入試、企業・自治体派遣共通)

年度	入学定員	志願者数	志願倍率	一次選抜 合格者数	二次選抜				入学者数
					受験者数	受験倍率	合格者数	合格倍率	
令和6年度	25	57	2.3	52	52	2.1	31	1.7	31
令和5年度	25	64	2.6	58	57	2.3	30	1.9	30
令和4年度	25	54	2.2	51	51	2.0	31	1.6	31

学費、補助金・給付金制度のご案内

社会人の学びをサポートする補助金・給付金制度が充実しています。

[入学金] 県内の方:282,000円 県外の方:394,800円 **[授業料]** 年額535,800円(半期ごとに267,900円納入)

専門実践教育訓練給付金 <small>(厚生労働省 個人向け)</small> HBMSは厚生労働省の指定講座となっているため、2年間でHBMSを修了すると給付金額が最大約93万円、支払った費用の70%が支給されます。受給資格等については、住所地为管轄するハローワークにご確認ください。	広島県未来チャレンジ資金 <small>(広島県 個人向け)</small> 入学時40歳未満で、修了後も広島県内で就業しようとする方を対象に、月額上限10万円を無利子で借りられます。条件を満たすと全額の返還が免除されます。詳細は、広島県商工労働局産業人材課にお問い合わせください。	イノベーション人材等育成事業補助金 <small>(広島県 法人向け)</small> 広島県内に本社・本店を置く中小・中堅企業を対象に、イノベーションを実現するための人材育成支援として、対象経費の2/3が助成されます。詳細は、広島県商工労働局産業人材課にお問い合わせください。
--	--	--